

季刊地理学 投稿種別「データ論文」について

2026年4月22日
東北地理学会編集委員会

季刊地理学では、78巻1号（2026年）より新しい原稿の種別として「データ論文」を設け、投稿を受け付けることとした。以下に、本誌が想定するデータ論文の定義と対象、目的、論文の構成要素および審査基準について説明する。

データ論文とは

データ論文（Data Article）とは、研究データの意義や内容、収集・作成方法、形式、アクセス情報、利用可能性等を体系的に記述した論文である。通常の研究論文とは異なり、データの作成自体を研究成果とするもので、分析結果や考察は原則として含まれない。自然地理学・人文地理学の様々なデータが対象に含まれるが、主に以下のようなものが想定される。

- 自然観測データ（気候・水文・環境計測、生態調査、地形・地質データ等）
- 量的調査データ（質問紙調査、社会経済統計、位置情報・移動データ等）
- 質的調査データ（インタビュー逐語録、フィールドノート、史料翻刻等）
- 地理空間データ（行政界・境界データ、地名辞書、衛星画像等）

データ論文の目的

データ論文は、オープンサイエンスを制度的に支える仕組みの一つである。データ作成のプロセスを透明化して学術研究の信頼性や再現可能性を高めるとともに、研究データの保存と公開、再利用（二次利用）を促進させる目的をもつ。さらに、研究データの収集・整理・公開そのものに学術的貢献を認め、研究データ作成の学術的価値を明確化・可視化する役割を担う。

データ論文の構成要素

季刊地理学におけるデータ論文の構成に特段の指定はないものの、標準的には次のような内容が含まれる。

- 背景・目的（データの学術的意義・価値，新規性・独自性，関連データや文献等）
- データの概要（データの収集・作成方法，処理・加工・整理方法，データの構造・形式，データに含まれる項目・変数，データの質評価等）
- 倫理的配慮（倫理審査，同意取得の方法，個人情報・機微情報の匿名化等）
- データの公開・アクセス方法（データ公開リポジトリ等の情報，費用・登録の要否，公開制限項目の有無と内容，その他の利用条件等）
- 想定される利用可能性（関連する研究分野，適用可能な分析手法等）

データ論文の審査基準

データ論文の校閲（査読）は主に以下の観点から行われる。また，それ以外の点については季刊地理学の投稿規程，原稿作成要領，校閲内規に基づくものとする。

- 学術的意義（学術分野におけるデータの重要性・独自性・新規性・希少性等）
- 方法の信頼性（データの質評価，作成方法の明確性・妥当性・再現可能性等）
- 倫理的配慮（倫理審査の要否・有無，個人情報保護・匿名化，公開制限の必要性等）
- 再利用可能性（公開場所・アクセス性，形式・定義の一般性，整合性・完成度等）

FAQ

- 通常の研究論文との違いは何ですか？

データ論文には分析結果・考察を含まず，データ作成自体を成果としてその過程・内容が記述されます。

- 通常の研究論文の「方法」との違いは何ですか？

特定の研究目的に対しての方法でなく，当該データの再利用を前提としたデータの作成方法・内容が記述の対象となります。

- この種別は季刊地理学独自のものですか？

いいえ。国内誌ではまだ限られるものの，一部には同様の種別が設けられています。また，データ雑誌（Data Journal）とよばれるデータ論文に特化した専門誌もあります（たとえば，*Scientific Data* や *Data in Brief* など）。

- 非公開データはデータ論文の対象になりますか？

データ論文は単にデータを詳しく解説するものではなく、再利用の促進を目的としているため、公開データであることが原則です。ただし個人情報保護等を理由とした部分的な公開制限は可能です。

- 問い合わせに応じて個人的にデータを送付することは公開とみなされますか？

個人の裁量による送付のみでは原則として公開とはみなされません。

- 公開場所はどこでもよいのですか？

とくに制限はありませんが、アクセス性や永続性の高い各研究分野のリポジトリや所属機関のリポジトリ、J-STAGE Dataなどが推奨されます。

- J-STAGE Data は使えますか？

はい。データ論文の場合も J-STAGE Data（および電子付録）を利用することができます。データ論文の掲載に合わせて研究データを J-STAGE Data 上で公開するといった組み合わせが可能です（手順としては論文掲載後に J-STAGE Data 電子関連資料の登録を申請することになります）。

- データの公開前でも論文は投稿可能ですか？

可能ですが、審査用としてデータを安全な方法で編集委員会に提出することと、論文公開までにデータ公開が完了することが必要です。J-STAGE Data を利用してデータ公開を行う場合も、登録は論文掲載後になるため、審査に際しては別途データを提出していただく必要があります。

- 二次データでもデータ論文の対象になりますか？

一次データでなくとも、二次利用によりデータを編集・整理・加工等して新たなデータを生成した場合は対象となります。ただし、新しい研究データとして十分な付加価値が追加されたとみなしうること、また、一次データの利用条件を遵守していることが必要です。

- 分析結果は一切載せてはいけないのですか？

データの概要を示す目的で、たとえば調査対象地を地図で示したり、集計値を並べたりすることは問題ありません。

- 既発表論文のデータを改めてデータ論文にできますか？

既発表論文（電子付録等を含む）で掲載済みのデータをそのまま再掲してデータ論文とすることは認められません。ただし、新たにデータ生成過程の記述やメタデータ・コードブックの整備、データセットの体系的な再構築などが行われ、実質的な拡張・追加がなされたうえで、既発表論文との関係が適切に記載されている場合は対象となります。

- 研究論文と同時に投稿することは可能ですか？

可能です。ただし役割を明確に分け、内容の重複がないことが必要です。